

<平成30年度訪問看護師人材養成研修会受講者活動報告会／事業所自己評価ガイドライン普及のための行使養成研修会>研修報告

訪問看護ステーション ひまわり

江藤 美鈴

開催日時：令和元年11月28日（木）10：00～16：45

会場：CIVI研修センター日本橋

<報告>

活動報告①「函館市情報共有ツールを使用した退院支援研修を開催して」

・函館市においては、訪問看護ステーション連絡協議会と、県看護協会、医師会の先生方との連携体制が整っておらず、ご利用者の情報にバラツキの無い、地域で統一された情報共有ツールの整備を望む声があがり、情報共有ツールを各種関係事業所や団体等と議論を重ね、作成した報告であった。熊本県に於いては、すでに10年ほど前に、情報共有ツールは作成されていること、看護協会や医師会の先生方との連携、協力体制は整っていることを考えると、熊本県訪問看護ステーション連絡協議会の代表と他諸団体の代表者の方々との関係性を構築されたことへの感謝と、他県と比べると恵まれた環境であることを知りました。

活動報告②「石川県訪問看護ステーション連絡協議会が主催したACPを巡る事例検討会の開催」

・石川県では、地区別に研修会や在宅看護県民フォーラムを開催。その活動内容として、「やってみよう！人生会議」として意思決定支援を多職種で学ぶ研修を行い、好評であったこと、今後さらに研修会の充実を図る方向性であることの報告であった。熊本県も同様に、地区ごとに7ブロックに分け、それぞれが連携し研修会を開催しているが、ブロック共通テーマで研修会は開催はしていない為、こういう企画の研修もあってもいいのではないかと思います。

活動報告③「自らが中心となって横のつながりを強化し、レセプト請求の研修会を開催」

・兵庫県宍粟市では、5か所のステーションがあるが、定例会が無く、ステーション間の交流がなく、連携が出来ていないことが現状。そこで、しそく訪問看護連絡会を設立し、連絡会を開催。どのステーションも、レセプト返戻に困っていることを確認した為、研修会を開催。その後、管理者間の繋がりが強化され、地域での医療と介護の連携にも活動の場を広げたとの報告であった。宍粟市の5か所の訪問看護ステーションの内、連絡協議会に入っている事業所は1か所のみという報告には、衝撃を受けた。熊本県の連絡協議会の加入率は、他県と比べると高いこと、ステーション同士の横の繋がりは、ブロック内・外でも出来ており、再度、熊本県の連絡協議会の良さ、強みを確認することが出来ました。

活動報告④「訪問看護講師人材養成研修会での学びを活かした伝達講習の実施」

・広島県では、H30年度人材養成研修の内容を参加者3人で担当し、参加型の研修となるように伝達・報告後はグループワークを行い実践活動に繋げたとの報告であった。参加者同士で協力し、伝達講習をすることで、研修効果が高まることを学びました。

講義「訪問看護ステーションにおける質の管理」

みんなのかかりつけ訪問看護ステーション名古屋 代表取締役 藤野 泰平 先生

・事業所の社会的役割 Vision→実現したい世界 Mission→会社の役割 Value→大切に
する価値基準 Credo→行動指針 を明確化した上で、労働環境、私たち自身がハッピーで
なければならないという組織風土を作り、利用者中心に考えケアをしていくこと。顧客は誰
か、広い視野で地域創り、成果を判定する尺度、情報管理などに視点を置き、事業を展開し
ていったプロセスを話された。また、社会的課題、超高齢先進国、在宅医療、国民のニーズ、
訪問看護の重要性、供給の課題、社会保障費の増大など、多岐にわたり私たちが取り組まな
なければならない課題についても投げかけられ、考え学ぶことが出来た。

講義「訪問看護ステーションにおける事業所自己評価のガイドラインおよびWeb評価シ ステムの使用方法・実践報告」東京ひかりナースステーション 所長 加藤 希 先生

セコムとしま訪問看護ステーション 可知 郁枝 先生

・訪問看護ステーションの質の管理、質の向上を図るために、ドラインを活用して欲しい。
メリットとして、自己評価を客観的に行えること、強みや弱みがわかる、事業所の取り組みを
経年的に確認することが出来る、課題を発見・明確にすることで、今後の取り組みが出来る、
事業運営等、悩んだ時の指標になる。ポイント①管理者とスタッフが一緒に評価サイクルを
まわす②主観的判断に陥らない③少なくとも年1回は実施する④自己評価の取り組みや結
果を積極的に公表しようという説明であった。実践報告では、本所とサテライト各々で実施
し、比較・分析したことや、訪問看護師とセラピスト全員で個人評価したことなどの報告が
あった。管理者の考える看護の課題が伝わっていないなど、管理者とスタッフとの認識の違
いなどに気付かされ、次の支援につながったとの報告であった。自事業所、自身もこのガイ
ドラインをまだ使用していないので、今年度中にはこのシステムを使用し評価することを
目標とする。

<所感>他県の現状や活動を学ぶ機会を頂き、熊本県の連絡協議会を客観的に知ることが
出来ました。私たちは他県と比べると、とても恵まれた環境で仕事が出来、これも代表や他
団体の代表者の今までの取り組みや成果であることに感謝し、またこの強みをさらに活か
していかなければならないと思いました。各ステーションの質の向上のためにも、事業所自
己評価ガイドラインを使用することを広められるよう、取り組みたいと思いました。今回、
貴重な研修に参加させて頂き、有難うございました。